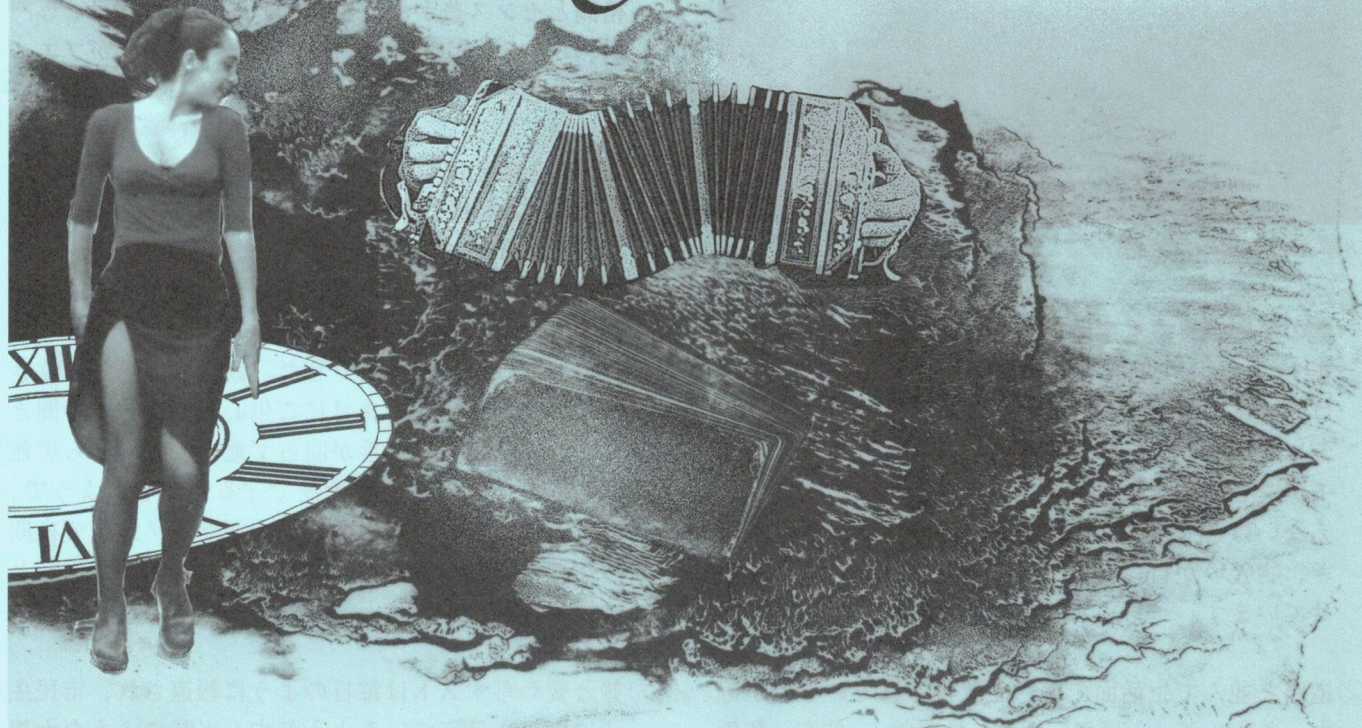


# Argentina

アルヘンティーナ

No. 47



© 星野 美智子

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2005年11月

20年ぶりに見たアルゼンチン .....	1	コロンプス・デー懇親レセプション .....	9
ブエノスアイレスでのコンサート .....	3	岡崎市主催「アルゼンチンウイーク」.....	10
アルゼンチン経済の現況		協会ホームページの一新、その運用と効果	
アルゼンチンはデフォルト状態を脱したか? .....	5	会員の皆さん気軽に掲示板に	
アルゼンチン2006ワールドカップ出場決定 .....	6	投稿して下さい! .....	12
タンゴ連載第2回 タンゴ三昧、自宅で		Resumen en castellano .....	14
手軽に一週間タンゴ漬けの幸せ .....	7	第6回タンゴ音楽の集い .....	16
忘れえぬ愛知万博「愛・地球博」.....	8	付録：「アルゼンチン情報掲示板」使用方法説明書	

## 20年ぶりに見たアルゼンチン

### 再びアルゼンチンの土を踏んで

退職したらアルゼンチンを是非とも訪ねたいというスエーニョが実現し9月初めからブエノスアイレスに滞在しています。ラヌッセ、カンボラ、ペロン、イサベル各大統領時代の駐在(71-75年)を含めて85年まで度々日亜間を往復した筆者にとって20年振りとなるブエノスアイレスは瑞々しい新緑に包まれブエン・アイレの薫

る美しいプリマベラを迎えたところです。旧知の日系人やアルゼンチン人との旧交を暖める一方、かつて馴れ親しんだ街々や郊外を巡るなど亜国の今を実感する日々を送っています。

### 変わったものといえば

①昔と変わらぬアルゼンチンの美しい自然とは違い現



8車線の高速幹線道路

実の亜国は良くも悪くも随分と変わったように映ります。一見して目に付くのは高速有料道路網の整備、コスタネーラ地区での高層ビルの出現、プエルト・マデロの高級レストラン街などでスケールの大きさとモダンさは国際的にも一流でとても債務大国とは思えないほどですが、反面中心街は歩道の未整備、汚さ、物乞いが目に付き当国のアンバランス振りを見せています。

- ②道路と並んで生活面で著しく改善されているのが電力、エネルギー、通信、鉄道、地下鉄、航空、郵便などで、殆どの国営事業が民営化され、設備の近代化によって亜国民が良質で低廉の公共サービスを受けているのは、停電や飲めない水道で苦勞した当時とは格段の違いがあり、電話やインターネットが街中のロクトリオで常時安く利用出来るのも隔世の感がします。民営各社の頭痛の種は政府の料金据置き政策にあり、目下仏スエズ社と政府間で撤退問題も絡んだ料金交渉の行方が注目されています。
- ③シックな高級店が軒を並べ紳士淑女の散歩道だったフロリダ通りから多くの老舗が消え、倒産したハ



観光客で賑わうフロリダ通り

ロッズ百貨店の荒廃したビルの露呈した様は、アメリカナイズされた新しい店々を訪れる外国人観光客で如何に賑わっても良き時代のブエノスアイレスのサポールとは縁遠いものです。それでもセントロに止まらずサンテルモやレコレッタ近辺を歩き回って、格調とセンス豊かな教会、学校、画廊、ムセオ、専門店、コンフィテリア等などに出遭うと「さすがブエノス」と思わずにはられません。

- ④観光客と言えばペソ安の恩恵をもっとも受けており、ホテル、為替屋、革製品店、一流レストラン、タンゴショーはうけに入っています。勧められエスキーナ・カルロス・ガルデルに行ってみたら観光客向けの踊り中心のショーばかりで、本場のタンゴを聴きたいファンとは無縁の印象でした。観光客の唯一の泣き所は治安で、ゆすり、スリにご用心の話の方々に聞きました。取締当局の手が回らず地元の人ですら災難に遭う位ですから自己責任で守るしかないようで、日本人駐在員の住居の多いベルグラノー地区で夜間の女性の一人歩きも心配なしと言われていた当時とは様変わりです。
- ⑤昔と変わらずストは毎日のように報道され、市民生活に影響を与えているようです。当時のような大規模なものはありませんが工場、航空、バス、学校、病院など色々あり、中でも驚いたのは、楽しみにしていた世界的ピアニスト、アルゲリッチのテアトロ・コロンの公演が楽団員のストで中止になったことでした。軍政が過去のものとなり政治的自由はあっても2001年の経済危機以後の庶民の生活苦が背景にあり、キルチネル政権は後遺症からの脱却と経済再建を目指し葛藤が続いているように窺えます。その意味で注目されるのが10月の上院・下院中間選挙で、キルチネル政権の基盤が強化されるか、選挙後の経済・社会政策がどうなるかが大きな焦点となっています。



大統領官邸前のデモ

⑥ ライフスタイルの変化で言えば、嘗てアルゼンチンは紳士・淑女の国と言われていましたが、国際的な流行や世代交代の所為でしょうか全般にラフな服装が目立ちます。一流レストランでも以前はやかましかったネクタイ・上着の着用は正式なパーティでもない限り構わないようでその点旅行者は助かりますが、日常の女性の服装が上下とも短くなり、若い女子プロゴルファーの様にお腹の一部を平気で出している女性が多く見かけられ筆者の如き年配者は目のやり場に困ってしまいます。

### 日系社会の変化について

当協会とも関係の深い日系社会についての印象を述べますと、2つの点で大きな時代の移り変わりを感じました。ひとつは総合商社駐在員の大幅な減少で、当時大手は10名内外の駐在員がいましたが現在は一人もいない商社もある位です。反面、自動車、電子・情報関係を始めメーカー駐在員が増えているようで、これらは国際的な産業構造の変化によって時代がトレードから現地生産や現地投資に移ったこと、又日系含む優秀な現地社員が

増えたこと等が背景にあり、真に歓迎すべきことであります。もうひとつは日系社会の世代交代の流れで、苦勞に苦勞を重ねられ日系社会の基盤を作られた一世の方々の時代から二世、三世の時代に移りつつあり、既に40代、50代の人達が中心的役割を果たすようになってきていることは大変頼もしく感じました。

### 終わりに

以上取りとめない印象を述べましたが、自動車生産、資源開発、住宅投資、カントリークラブ建設などの伸び、天然ガス車の普及や家庭の電化度、週末のスポーツクラブの賑わい、更には、近々1億トンにも達するといわれる穀物生産など以前から言われてきたアルゼンチンの豊かな生活インフラとポテンシャルは益々高まっており、色々難題を抱えていてもそれは所詮持てる国の悩みであって、真の発展を目指し今こそ国民の協調性と政策の継続性が必要ではないかとしみじみ感じた次第です。

(鶴岡記)

# ブエノスアイレスでのコンサート

舩松 伸男

私は小さい頃から歌が好きで声が良く昭和15年小学校4年生の時全国児童唱歌コンクールで優勝いたしました。昭和18年旧制の中学校に入り、将来は音楽学校に行きたかったのですが、大東亜戦争が激しさを増し歌どころではなくなりました。やがて敗戦、父が医師であったので、大阪市立医科大学予科に入学しました。家が空襲で焼け、アルバイトでアコーディオンを弾い

ていましたが、当時はダンスホール、キャバレーが多くバンドネオンの奏者も沢山いました。そこで給料の良いバンドネオンに代ろうと思い給料を半年分前借りしてバンドネオンを買いました。昭和22年の秋で17歳の時でした。

ただ、当時のバンドネオンはクロマティコばかりで、私は当時の人が手にしないディアトニコを買ったのです。この楽器がアルゼンチンで使われているバンドネオンでした。今と違い教則本も教えてくれる人も居ないので独学で練習しました。

予科から医学部へは殆ど無試験で入れるので学校に行かず毎晩ダンスホールで楽器を弾いていたので出席日数が足りず、もう少しで退学になる所でしたが無欠席、試験に全部合格すると言う条件で入れました。それからは勉強と楽器の両方に打込む事になりました。

卒業後、インターンの後、大阪大学第三内科に行き肺結核の勉強をして、国立病院勤務の後、現在の所で内科を開業しました。卒業後もバンドネオンは放した事は無く、頼まれればエキストラとして弾いていましたが、診

療所も順調にいていたので、昭和41年昔の音楽仲間とロス・アセス・デ・オオサカを結成して現在に至っております。今のメンバーは4年前に編成しました。皆若くて優秀な人ばかりです。よく人から、どちらが本業ですかと言われます。

私達の楽団ロス・アセス・デ・オオサカは本年7月ブエノスアイレスでコンサートをしました。

演奏会場の選定や諸々の準備はブエノス在住の谷口庄平氏がやって下さいました。

メンバーは当楽団のバイオリン奏者が出発前に急病になられた為、急遽ブエノスに滞在中の古橋 幸さんをお願いしました。

メンバーの構成は次の通りであります。

バンドネオン	舩松 伸男
	小川 紀美代
バイオリン	古橋 幸
ピアノ	綾部 美和子
ベース	荒玉 哲郎

私達は7月19日に日本を出発し、20日にアルゼンチンに到着しました。

コンサート会場は次の通りでありました。

7月22日 大統領官邸サロン・デ・ムセオ



7月24日 ブエノスアイレス市文化センター、サロン・ドラード



7月28日 国会議事堂内コンサートホール



7月30日 日本庭園内ホール

アルゼンチンの一流紙である CLARIN や Diario del Viajero に我々のコンサートの案内が掲載された為か、どの会場も満員でした。今度の演奏には日本の曲を原曲をあまりくずさない様にタンゴにアレンジして持参しました。リンゴ追分、お祭りマンボ、いい日旅立ち、夜明けのスカット、瀬戸の花嫁などです。これ等の曲は大層受けました。中でも、リンゴ追分、瀬戸の花嫁は大層めで、プロの歌手から楽譜を送って欲しいと頼まれました。

大阪市とブエノスアイレス市は友好協力都市であるので大阪市市長室国際交流担当部長 木村 勇氏から出演会場の責任者宛に前もって私達が行く旨の書簡が送られました。その結果、我々ロス・アセス・デ・オオサカは大阪市の音楽親善使節として両市の友好の一翼を担うことになりました。更に大阪市長からブエノスアイレス市長宛の親書をことづかり、直接お渡しする予定でしたが、選挙で市長不在のため秘書にお渡ししました。

ポルスキ在京アルゼンチン大使閣下からも前もって各会場に我々が行く旨の連絡をいただき大変感謝しております。

アルゼンチンの方々も歓迎して下さい、一夜有名なタンゴハウスであるミケランジェロに招待を受けました。在亜日本大使館もカクテルパーティーを開いて下さり、色々な分野の方々と歓談することが出来ました。実は、3年前にもピアノ、バイオリン、バンドネオンのトリオでブエノスアイレスに行き、エスキーナ・デ・オメロマンシーや日本庭園で演奏しましたが、今回は前回とは比べものにならぬ程盛況でありました。私は58年バンドネオンを弾いてきましたが、今年最高年でした。

これも色々な方面の方々のご支援のお蔭と心から感謝しています。もう歳ですから楽器を弾くのにも疲れますが、このアルゼンチンのコンサートを思い出しながら、もう少し演奏を続ける積もりです。末尾ながら、日本アルゼンチン協会の皆様のご健勝と協会のご発展をお祈りいたします。

(へのまつ のぶお、大阪大学医学博士・当協会理事)

# アルゼンチン経済の現況

## アルゼンチンはデフォルト状態を脱したか？

小林 晋一郎

2001年末から支払停止していた国債の新規国債への交換が2005年6月2日に完了した。再編対象の国債は総額818億3,600万ドルで、その内、623億1,800万ドルが交換され、投資家の再編受入れ率は76.15%で当初の目論見を上回る結果となった。3種類の新規国債が発行され、旧国債と同額で交換されるパーボンドが150億ドル、旧国債から割引発行されるディスカウントボンドが119億3,200万ドル（旧国債の額面は354億500万ドル）、割引率の低い準パーボンド83億2,900万ドル（旧国債の額面は119億1,300万ドル）で、623億1,800万ドルの旧国債が352億6,100万ドルの新規国債と交換され、政府の債務負担が軽減されデフォルト状況は解消された。国債投資家はアルゼンチン国内を含め全世界で100万人以上と言われ史上最大の国家債務再編であった。日本国内で発行されたサムライ債の呼ばれる円建て国債1,915億円も債務再編の対象だが、個人投資家は交換期日前に証券会社に売却したようだ。アルゼンチン政府が7割削減という前例のない債務再編案を提出、再編交渉は困難を極めた。

デフォルト状況から脱出、カントリーリスクの指標であるソブリン・スプレッド\*は、デフォルト状況下でピーク7,220ポイントを記録したが、現時点では400ポイント

前後までに低下、略ブラジルやベネズエラと並んでいる。表で見ると、良好な国際経済環境に支えられ、輸入の減少もあり、貿易収支は黒字を記録、外貨準備も順調に積みあがっている。アルゼンチン国内で、銀行預金の順調な増加に対し設備資金需要が弱く貸出が伸びず、流動性過剰の状況にあり、政府はボラントリー・ベースで国内資本市場にて5月に10億ペソ、7月に2回10億ペソ合計30億ペソの起債を行った。世界的な金余り状況だから、いずれアルゼンチンは国際資本市場にも復帰するだろう。海外の小口投資家に多大な損失負担を強いて債務問題を解決したことは、アルゼンチン政府にとり成功ではあったが、自国民が海外に1,000億ドル以上といわれる金融資産を持ちながら、還流させる施策もとらず、この様な解決が今後も許されるのか、大きな問題を残した。

さて、デフォルトから脱したとは言え、政府は公的債務に関連する重要な課題を抱えている。第1に、IMFの中期支援プログラムに関わる第3回レビューが終了していないことだ。このことは、アルゼンチン政府のIMFに対する債務のリファイナンス交渉の支障であり、リファイナンスが得られなければ政府は財政資金と国内外準で返済しなければならない。IMFとの交渉が終了していないので、パリクラブでの先進諸国政府機関

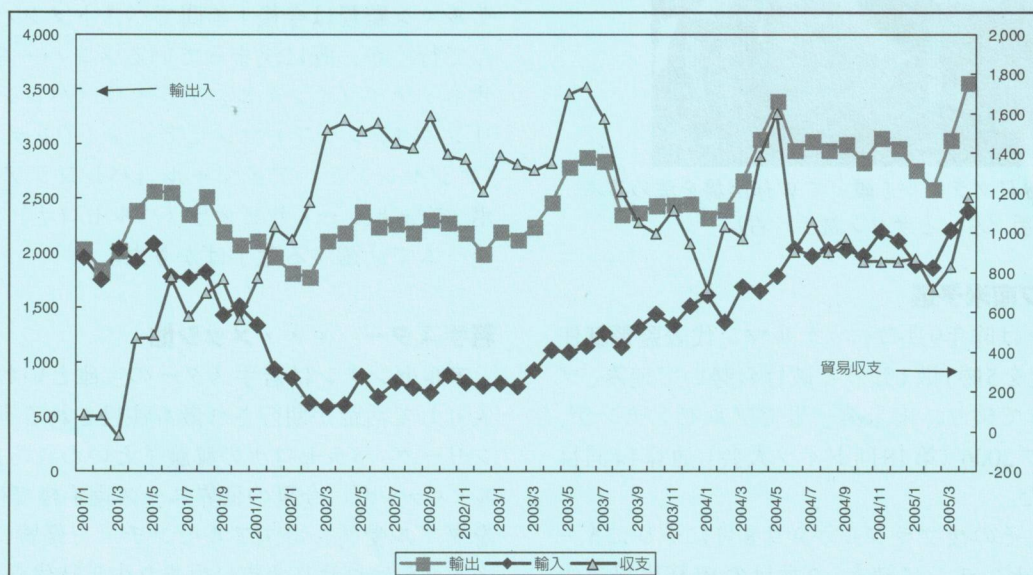


図1: 貿易動向 (単位、100万ドル) 出所: INDEC

\* アルゼンチンのドル建て国債の利回りと同じ期間の米国債の利回りとの差。

との債務交渉も進んでいない。IMFやパリクラブとの関係正常化が急がれる。第2は、国債交換に応じなかった総額で195億1,800万ドルになる投資家との関係をどうするかである。交換に応じた国債保有者が交換後に、不利な扱いにならない最惠条項を考慮した解決を

図らなければならない。交換に応じた国債保有者は切り捨てということはできないだろう。

(こばやし しんいちろう、当協会理事  
東京リサーチインターナショナル客員研究理事)

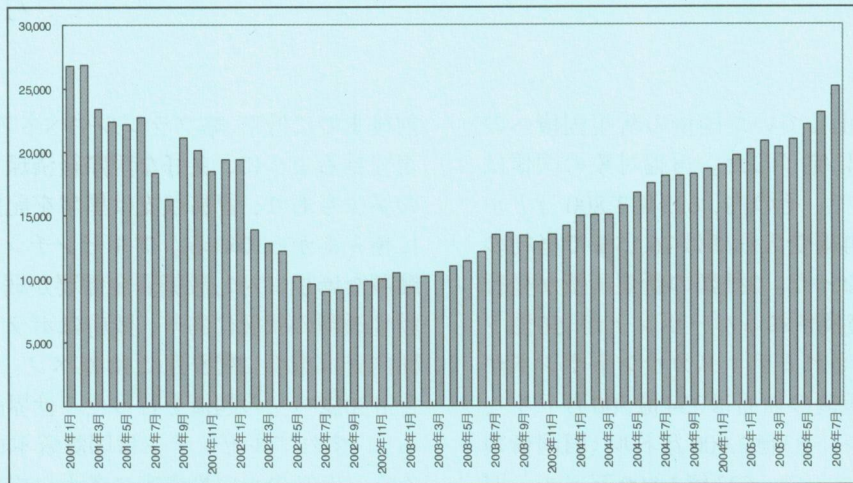
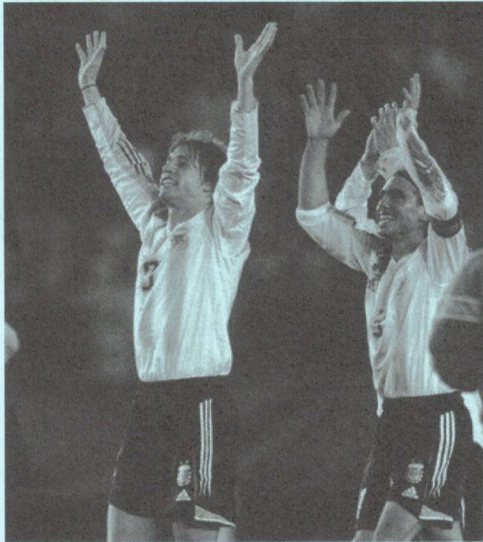


図2：外貨準備推移 (単位、100万ドル) 出所：経済省



## アルゼンチン 2006 ワールドカップ出場決定

渡部 千秋



2005年6月8日ブラジルを破ってW杯出場を決め喜ぶ  
クレスポ選手 (左) とサリン選手 (右)

### ワールドカップ南米予選

アルゼンチンは昨年9月のペッケルマン代表監督就任以来予選7試合を5勝1敗1分けと破竹の勢いで進み、ブラジルを3-1で破り、南米第一号でアルゼンチンが、ワールドカップ2006 (第18回ドイツ大会) 通算14回目の出場を決めた。

南米予選は、その後ブラジルが9月8日にチリに5-0で勝ち、アルゼンチンに続き、2番目のW杯出場を決めた。南米予選残る枠は2+1 (オセアニアとのプレー

オフ) となったが、現在3位のエクアドルと4位のパラグアイが可能性が高く、5位はコロンビア、ウルグアイ、チリと厳しさを増している。

### アルゼンチン代表の顔ぶれ

さて代表チームであるが、ブラジルのスター軍団にも劣らない世界で活躍するスター軍団を抱えている。ペッケルマン監督は今後1年間でベストメンバー23名を選んで行くが、既に決まっているメンバーを見ても、DFサネッテイ (インテル) アジャラ (バレンシア) MFソリン (バレンシア) カンビアツォ (インテル) リケルメ (ビジャレアル) アイマール (バレンシア) FWクレスポ (チェルシー) サビオラ (バルセロナ) と世界の有名チームで活躍する選手ばかりだ。

### 若手スター・・・メッシ他

アルゼンチンは若手スターの宝庫といわれ、今後代表入りして活躍が期待され最も注目される選手は、スペインリーグバルセロナの秘蔵子といわれる18才のリオネル・メッシだ。今夏の世界ユース選手権で得点王とMVPをダブル受賞し母国アルゼンチンを優勝に導いた。

メッシはロサリオ市に生まれ少年時代から注目されていたが、成長ホルモン障害の問題を抱え高額の治療費を

引き受けるチームがアルゼンチンには無く、13才の時彼の才能を見抜いて医療費の負担を約束したスペインバルセロナへ一家で移住した。2004年16才でスペイン一部リーグデビュー、2005年には、17才でリーグ最年少ゴールを決めた。そして前述の世界ユースの活躍である。

代表監督ベッケルマンも絶賛し、8月にはW杯予選代表デビューを果たした。

その他の期待の若手としては、天才ストライカーのテベス(21才コリンチャンス ブラジル) ワールドユース優勝チーム主将サバレタ(20才サンロレンソ)等多彩である。

いずれにせよアルゼンチン代表としては、93年のコパアメリカ優勝以来ワールドカップも含めビッグトーナメントで12年間も優勝が無いという異常事態をストップするのは、ワールドカップ2006の優勝だと期待されている。

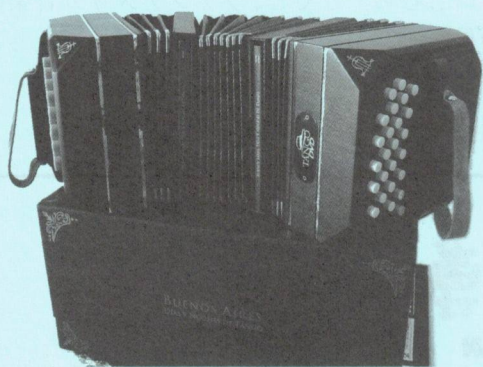
(わたなべ ちあき 三菱商事グループ 当協会会報編集メンバー)



## 連載第2回

# タンゴ三昧、自宅で手軽に一週間タンゴ漬けの幸せ・・・

谷本 雅世



Tango DVD

今回はタンゴ・ファン必携のDVD7枚組セット「BUENOS AIRES Días Y Noches De Tango」(ブエノスアイレス・タンゴの昼と夜)を紹介します。アルゼンチンでもこの8月に発売されたばかりのもので、写真でおわかりのとおり、(おそらくは手作りによる)木と紙と本皮を使用したバンドネオンを模した特製ケース、さらにそのバンドネオンを収めるケースまでついています(バンドネオンの大きさは実物のおよそ3分の1ほど)。押すことが出来ないもののボタンの配列も本物らしく、蛇腹も紙で出来ていて伸縮可能。その蛇腹部分に7枚のDVDとアーティスト紹介が掲載されたブックレット2冊が収められているのですが、この特製バンドネオン型ケースだけでもタンゴ・ファンは欲しくなる出来栄です。

DVDの内容は「ブエノスアイレスの昼と夜」というタイトルが示すとおり、ブエノスアイレスでまるまる一週間タンゴを楽しむなら・・・というコンセプトに基づき、それぞれのDVDを日曜日から土曜日までの7日間に割り当て、それぞれに現在のブエノスアイレスの代表的なタンゲリーア、カフェ、バーでのライブ演奏を2箇所づつぐらい収録しています。

例えば日曜日(DVD1)には「エスキーナ・オメロ・マンシ」におけるレオポルド・フェデリコ楽団の迫力ある演奏を収録。火曜日(DVD3)には生演奏で知られるミロンガ(ダンスホール)トルクアート・タツソでオスバルド・モンテス(バンドネオン) & アニバル・アリアス(ギター)の名コンビが登場、木曜日(DVD5)は2度の来日公演でもおなじみのオルケスタ・エル・アランケの「ラ・トラスティエンダ」での演奏と、プエルト・マデーロに最近出来たレストラン・シアター「マデーロ・タンゴ」における若手の優秀な六重奏団バレ・タンゴによる演奏、金曜日(DVD6)はロベルト・アルバレス率いるコロール・タンゴがサンマルティン劇場で演奏、といった具合。各巻の冒頭で案内をしているのはなぜか映像には登場しないフェルナンデス・フィエロ楽団などで専属歌手として活躍している若手、ワルテル・チーノ・ラボルデ(彼がギター伴奏で歌うシーンもあります)。本当にブエノスアイレスでタンゴスポットめぐりをしているかのような贅沢な内容です。



バレ・タンゴ六重奏団

他にもタンゴ・エレクトロニカのグループ「ナルコタンゴ」、新感覚による自作歌曲を歌う女性歌手ドロレス・ソラーを中心とした「ラ・チカーナ」、故ロベルト・パンセラの伴奏で歌う大ベテラン、アルベルト・ポDESTAとフアン・カルロス・ゴドイの映像、「タンゴ・アルヘンティーノ」でも活躍したダンサー、マジョラル&エルサ・マリアのインタビュー、ブエノスアイレスで年に一度開催されるタンゴ週間の野外ミロンガの様子に至るまで、幅広い映像がたっぷり楽しめます。画質もこの企画のために収録されているので満足いくものだし、リージョンフリーなので、日本製のDVDプレイヤーでも問題なく再生可能になっています（アルゼンチン国内・ヨーロッパ向けも意識してDVDのそれぞれの面をNTSCとPALそれぞれに割り当てた仕様）。初心者から熱心な愛好家まで十分納得させてくれることでしょう。

ボーナス映像として各日ごとにライブ会場やバー、CD店などの住所・電子メール等のデータも紹介されていて、実際のブエノスアイレス探訪にも役立つはず。いわば仮想のブエノスアイレス・タンゴ・ツアーといった感じ。

DVDの特性を生かして、字幕はスペイン語の他に英

語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、日本語、中国語の7ヶ国語がつけられるようになっています。ただ日本語字幕は、入力作業の上のミスなのか文章の最初の文字が欠落している箇所が多く、また翻訳ソフトを使用しているせいか時々文章として理解できない内容になってしまった部分も多く、正直なところあまりあてになりません。歌の入った曲にも歌詞の日本語訳字幕をつけられるのですが、あまり期待しないほうがいいでしょう。このDVDセット唯一の難点です。でもスペイン語字幕を出すように設定すれば、普段聞き取りにくいスペイン語の話も文字でみることが出来、スペイン語の勉強用としても使えます。

なにはともあれ、これだけの内容をもった現代のタンゴの映像集は初めてと言えるし、価格は現地でも200米ドルを越す高価なものですが、それだけの価値は充分あるといえるでしょう。

（執筆：たにもと まさよ、HPアルゼンチン、ブエノスアイレスの風運営、ライター・当協会会員）

（協力：にしむら ひでと、ラテンアメリカ音楽研究・当協会会員）

## 愛地球博 EXPO 2005 AICHI JAPAN

Nature of Argentine Republic



Animals in Argentine Republic



Arts of Argentine Republic



## 忘れえぬ愛知万博「愛・地球博」

3月25日に開幕した「愛・地球博」は120カ国と4国際機関の参加の下、185日の開催期間を無事に過ごし、記録的な2千2百万人を超える大入場者を受け入れ9月25日に閉幕しました。

「長久手会場」グローバル回廊に位置するアルゼンチン・パビリオンでは、同国の恵まれた多彩な自然と人との触れ合いを、そこに育った変化に富む多様な観光と、

豊かな農畜産物の数々で紹介し、万博のテーマ「自然の叡智」を肌で感じて頂ける立派なものに出来たと確信している由であります。

同時に、同国独自の魅力溢れる文化と習慣は、多くの訪問客の興味を惹きつけ、殊に毎日毎時、開催されるタンゴダンスショーは大変な人気を博しました。



また、7月11日(月)はアルゼンチン記念日に指名され、アルゼンチン本国からは、エンリケ・メイヤー観光長官以下官民代表が来日、ポルスキ駐日大使、オセラ公使も参加。これに対する日本側は岩崎国土交通大臣政務官他が対応され、公式式典はEXPOホールでの両国旗掲揚、国歌吹奏と高官各位の挨拶で始まり、続く午餐会には、当協会土屋会長も列席されました。翌12日には、ポルスキ駐日大使招待の晩餐会が公邸で開催され協会からも多数参加、公式日程を終了されました。

アルゼンチン・パビリオンにおいても参加各国と同様、その国の民族音楽、舞踊およびサッカー等のスポーツの得意の“技”や“芸”が、連日披露され万博ならではの好評を博しましたがこの間の事情、内容は既によくのマスコミで報じられていますので茲では省略し、協会として特筆すべき万博トピックスを下記の通り御報告申し上げます。

(1) 当協会の法人会員「NKK シームレス鋼管株式会社」の設立者のサン・マルティン会長は、2000年10月20日付け当協会会報No.30の第1ページで、「アルゼンチン資本 日本鉄鋼業界に進出」のタイトルの下、野村理事長のインタビューを受けた仁で、設立後2年間滞在し一昨年帰国しました。彼は幼少の頃から日本の瀬戸物の壺を大切にし、「大きくなったら私も日本に行き立派な仕事をしたい」と言っており、「これは祖父(母方の父)ファン・カペーナ海軍士官がアルゼンチン海軍練習艦サルミエント号で1906年(明治39年一日露露戦争終結の翌年、またワシントンでの日亜修好航海条約締結の8年後)に来日し、お土産に持ち帰った物の由であり、先月来日時には、今回の万博に彼は深い感銘を覚えていました。

(2) 更に驚いた偶然が起きました。それは先に御報告致しました7月11日来日のエンリケ・メイヤー観光長官の随員として来日致しましたクリステイナ・サン・マルティン観光庁事務局長は、何とサン・マルティ

ン会長の実妹であった事です。本人も今回訪日の指示を受けた時には驚きましたが、こんなに嬉しい事はなかったと話して居りました。

(3) 又、この度の日本での愛知万博には、アルゼンチン外務省は大変粋な決断をしてくれました。政府の責任者はギジェルモ・ゴンザレス国際博覧会政府代表ですが、愛知の「愛・地球博」のアルゼンチン・パビリオンの責任者に、ダイアーナ・アレハンドラ・セイノ部長を抜擢してくれた事で、一緒に参加したアルゼンチンスタッフを統括し極めて効果的な数々の策を打って好評を博しています。彼女は、戦前戦中日本商社駐在員として活躍され、戦後は独立して貿易商として成功された清野氏の息女で、昨年末日系企業を停年で卒業後、外務省に入省、今回の来日となったそうです。好評なタンゴダンスショーの舞台改善、観覧席配置に止まらず、サッカーと並び評判の高いアルゼンチンのゴルフ実技の舞台での披露を始めたのも彼女のアイデアだそうで、これで英国ゴルフオープンで優勝し、米国プロの誤記でマスターズ優勝を棒に振り涙をこらえたアルゼンチンの名手ロベルト・デ・ビセンソの存在を納められた我国のゴルファーもいられた由です。

「世界は4種類の国に分けられるけれど知っている?」「え!」「それはね、先進国、発展途上国にアルゼンチン国と日本国」とか、「日本とアルゼンチンは何でも反対。時間も季節もその他諸々も」と何時も冗談に事欠かなかった彼女にとってこの度は懐かしい母の国での最高の滞在であったと思います。

この3人のアルゼンチン人にとっては、愛知万博「愛・地球博」は、生涯不滅の思い出として、これからの人生に咲き誇り、夫々が自らの道を歩み、真の日亜友好親善へ尽くしてくれる事でしょう。

(中野記)

## コロンブス・デー記念懇親レセプション

コロンブスのアメリカ大陸発見記念日に因む恒例の当協会懇親レセプションがポルスキ駐日大使の御厚意により、元麻布の大使公邸で10月12日(水)18:30より約2時間半に亘り開催されました。

参加者は外務省坂場中南米局長以下招待客5人、当協会土屋会長、木島理事長以下役員・会員(含む家族、友人)121人計126人に、ポルスキ大使以下の大使館員家族が加わり140人近い盛況でした。

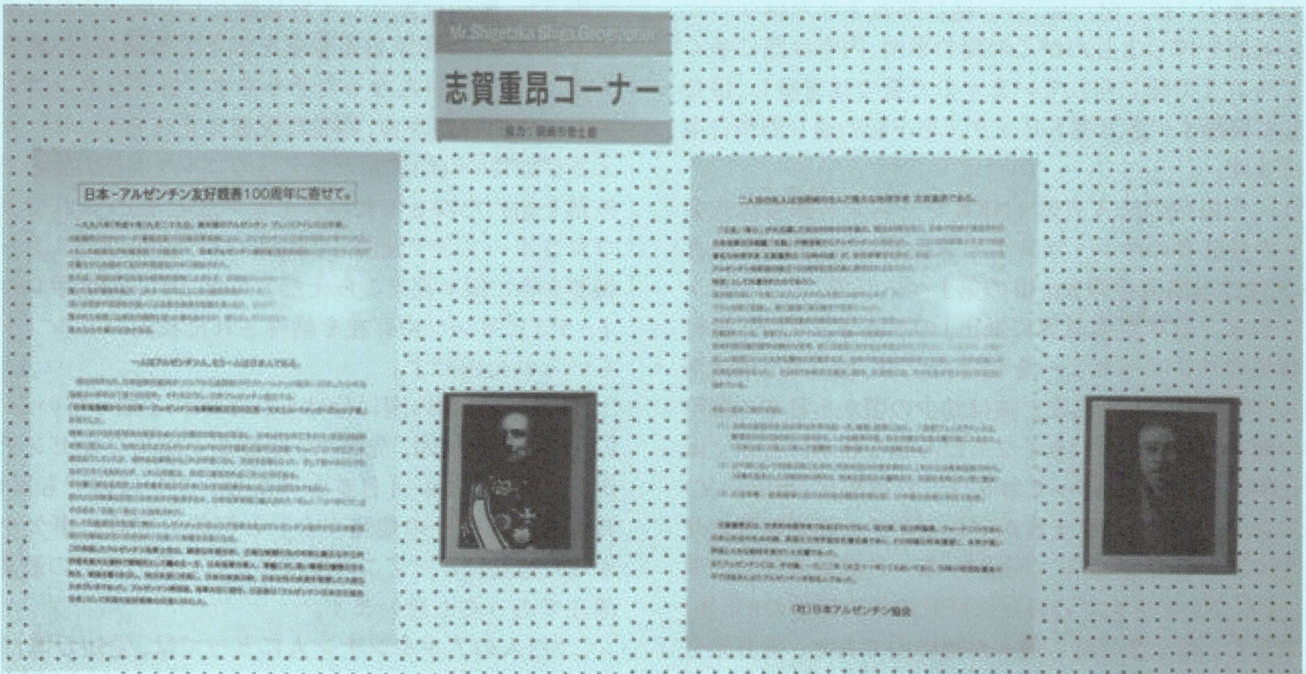
懇親会は、宍戸和郎理事の司会によりポルスキ大使、土屋会長のご挨拶、木島理事長の乾杯音頭に続き、当協会理事でありバンドネオン奏者の第一人者京谷弘司氏率いる3重奏団が出演、飛び入りで会員の福島あつし氏の完璧なスペイン語の歌詞によるタンゴの歌も加わって大いに盛り上がり、参加者はアルゼンチンワイン、エンパナーダ、チョリソ等の味と共にアルゼンチン・ムードを楽しみました。

# 岡崎市主催「アルゼンチン・ウィーク」

愛知21世紀万博「愛・地球博」よりアルゼンチンとの友好親善促進市の指名を受けた岡崎市は8月20日から27日まで、松坂屋岡崎店にて「アルゼンチン・ウィーク」と呼称し、同国の文化、音楽、料理などの多彩な行事を開催、当協会は様々な分野で同市事業に協力し、下記は

## 「日本—アルゼンチン友好親善 100周年に寄せて」

と題して会場に展示されたパネルであり、参加者の大好評を得た。



一九九八年（平成十年）九月二十九日。南半球のアルゼンチン プエノスアイレスは早春。

大統領府のカサロサーダ（薔薇宮殿）で近衛兵軍楽隊により、アルゼンチンと日本の国歌が奏でられた。メネム大統領及び秋篠宮殿下の臨席の下、日本アルゼンチン修好航海条約締結百周年記念式典が荘重ながらも極めて友好的雰囲気の中に開始された。

思えば、両国は単なる政治的経済的接触に止まらず、両国民の心の中に育まれた相互敬愛に基礎を置いた友好関係を結び、これを100年以上に亘り維持発展させて来た。この様な例は希有とも言えよう。或いは言語や国民性の違いによる意思疎通の困難を乗り越え、両国間にこれほど豊かな関係、友情が築かれた背景には歴史の偶然と言った事もあるだろうが、明かにその功績を特記して顕彰すべき二人の偉大な大先輩の足跡がある。

一人はアルゼンチン人、もう一人は日本人である。

明治38年5月、日本国聯合艦隊が、ロシアから遠路駆け付けたバルチック艦隊に完勝した日本海海戦より本年は丁度100周年。それを記念し、日本アルゼンチン協会では、

「日本海海戦から100年—アルゼンチン海軍観戦武官の証言—マヌエル・ドメック・ガルシア著」を再刊した。

極東における利害関係の衝突をめぐり日露間の緊張が高まり、日本はその存亡をかけ、両国は戦闘状態に突入した。当時たまたまアルゼンチンはイタリアで最新式装甲巡洋艦「モレノ」「リバダビア」を建造起工していたが、偶然ある事情からこれが不要になり、売却する事となった。そして数々のロシアの反対工作にも拘わらず、これら両艦は、我国に譲渡されるに至ったのである。その裏に単なる商売上の考慮を越えた日本に対する配慮があったことは言うまでもない。

欧州よりの無事な回航に日本国中が歓喜する中、日本海軍軍籍に編入された「モレノ」「リバダビア」は、その名を「日進」「春日」と改名された。そして両艦建造の監督に携わっていたドメック・ガルシア海軍大佐はアルゼンチン

政府から日本艦隊随同行の観戦武官に任命され「日進」に乗艦する事になる。

この卓越したアルゼンチン海軍士官は、綿密な作戦分析、正確な戦闘行為の判断と厳正な中立的評価を膨大な資料で観戦記として纏める一方、日本海軍の軍人、軍艦に対し高い尊敬と憧憬の念を抱き、戦後も暫く在日し、明治天皇に拝謁し、純銀の下賜品を賜った。また、日本人の気概と進取の気性を愛し、日本の家族の絆、日本女性の貞淑を敬愛した大変な日本びいきであった。アルゼンチン帰国後、海軍大臣に就任、引退後は「アルゼンチン日本文化協会会長」として両国の友好親善の促進に尽くした。

二人目の先人は当岡崎の生んだ偉大な地理学者 志賀重昂である。

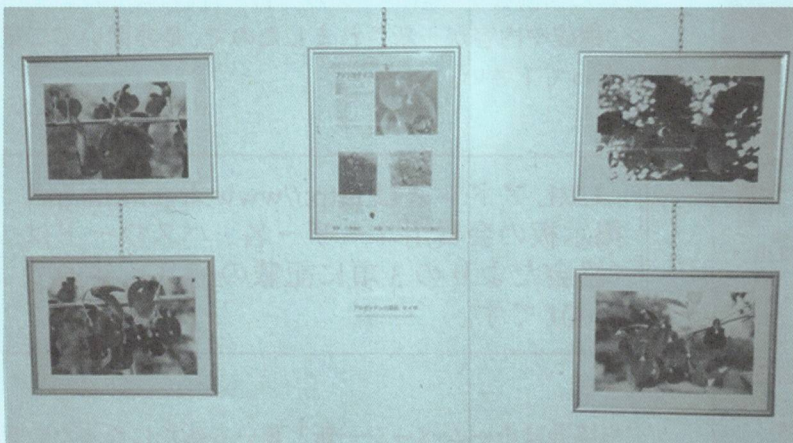
「日進」「春日」が大活躍した明治38年の5年後の、明治43年3月に、日本で初めて建造された日本海軍巡洋戦艦「生駒」が横須賀からアルゼンチンに向った。ここには岡崎藩士子息である著名な地理学者志賀重昂氏(当時48歳)が、勅任参事官を拜命、乗艦していた。目的は友好国アルゼンチン共和国の独立100周年記念式典に参加される為である。今日の言葉で言えば「政府特使」として派遣されたのであろう。喫水線の深い「生駒」はブエノスアイレス港には接岸出来ず、急遽南に五百余キロも離れたバイアブランカ港に投錨し、更に鉄道に乗り継いで首都に入った。

アルゼンチン滞在中の見聞は重昂の帰国報告と言うべき「世界山水図説」に生き生きとしたタッチで記載されている。首都ブエノスアイレスにおける数々の絢爛豪華な式典の様子は勿論の事、その他に、欧米列強の激烈競争の舞台の実情、更には亜国に対する日本進出の在り方など、この種情報、知識の乏しい我国にとって大きな警告と刺激を与え、当時の我国政府関係者や知識人の世界認識への大きな指針となった。とりわけ分析の正確さ、鋭さ、先見性には、今でも息を呑む程の迫りに溢れている。その一部を御紹介すると：

- (1) 当時の亜国の生活水準は世界の超一流、倫敦、紐育に次ぐ。「首都ブエノスアイレスは、繁華花の如く詩の如く小説の如く、しかも経済の富、財力の豊かなるは寶の海に入る如く、」日本は宜しく我より進んで亜爾然丁と堅く握手すべき国柄である。
- (2) 近代期において列強は既に大洋洲、阿弗利加の分割を終わり、これからは南米投資の時代。(収奪を基本とした旧植民地は終わり、欧米自国民の大量移民で、自国を南米に作り更に繁栄)
- (3) 石油争奪、資源確保における列強との競合を関が原、川中島の合戦に例えて指摘。

志賀重昂氏は、世界的地理学者であるばかりでなく、政治家、政治評論家、ジャーナリストであり、日本山岳会の生みの親、英国王立地学協会名誉会員であり、その明確な将来展望に、各界が高い評価と大きな期待を寄せた大先輩であった。またアルゼンチンには、その後、一九二二年(大正十一年)にも赴いており、当時の我国指導者の中では抜きん出たアルゼンチンを知る人であった。

## (社) 日本アルゼンチン協会



当協会はアルゼンチン共和国の国花“セイボ”を左の写真の通り会場に展示、観衆の興味を集めた。このセイボは協会の舩松理事が大阪—ブエノスアイレス両市親善の象徴とし大阪市立長居植物園に寄贈されたのが開花したのを、日本タンゴアカデミー吉澤義郎会員が撮影されたもの。

「アルゼンチン・ウィーク」最終日の8月27日には、アルゼンチン大使館ホールへ・オセラ公使は、岡崎市長、同商工会議所会頭、市議会会長、アルゼンチン・パビリオン館長と会食された。

またその後の閉会式での特別講演では、志賀重昂氏の帰国報告での「未だ彼我間の外交、通商関係も浅く、知識集積も乏しいが、日本はこの国にどんどん出かけて行き握手の手を差し出すのではないか。」との彼の夢に触れられ、「アルゼンチン・ウィーク」でのその成果を賞賛された時には、聴衆の感激を呼び大喝采を浴びられた。

アルゼンチン・ウィークの最後を飾る記念タンゴパーティでは、皆と一緒に素晴らしいステップの御披露があり、中日新聞にも報道された。



(中野記)

オセラ公使のスピーチとダンス

## 協会ホームページ (HP) の一新、 その運用と効果

会員の皆さん気軽に掲示板に投稿して下さい！



9月初旬に皆様にお送りした「協会だより (1)」にてお知らせした通り、平成17年度活動計画で重点事項とされた当協会ホームページの一新が行われ、そのデザイン、構成や内容が一新されましたので、是非開いてご覧になって下さい。

URL アドレスは <http://www.argentina.jp/>、  
掲示板の会員用ユーザー名・パスワードは  
(協会だよりの3項に記載の通り) 共通で  
llao01 です。

当協会はホームページ一新と装いも新たになった会報 (No.46, No.47)・協会だよりを相互に連携させることにより、従来にもまして会員との communication を計りたいと考えております。

即ち、協会と個人会員とのcommunicationに関しては、これまでの会報や協会だよりはどちらかと言うと一方通行のきらいがありましたが、これからは協会や会員有志からの日垂に関する多岐にわたる情報やイベント案内などの連絡をHPに掲載し、掲示板を通じて会員から意見や情報を常時input願う、さらには会員諸氏間の相互交流に発展させるなどのマルチ方向で行い、また、HP公開を通じ一般読者の新会員加入につなげるべきと考えており、既に、若干の方々よりはHPを通じて加入申込書をいただいております。

掲示板の使用方法詳細については、本記事の付録として「アルゼンチン情報掲示板使用方法説明書」を作り添付致しますので、ご活用願います。

おかげさ言えば、かかる新しい試みは新広報システムとも言うべきものであり、HP、会報、協会だよりを素早く組み合わせ、システムとして如何に上手く運用するかが新時代に即した協会の運営にとり極めて重要と考えております。

筆者はこれからの協会運営に際し、現在約211名(内、正会員約78名、賛助会員133名)もおられる個人会員の方々のニーズを如何に把握し、如何に協会の運営・活動に反映出来るかが重要なポイントであると考えております。

この為には、特に会員諸氏に投稿を通じ積極的に活動に参加していただくことが効果的であります。さらには、会員の同じ趣味を持つ方々どうしがHPを通じメールアドレスを知って相互交流に発展されるのも誠に素晴らしいことと思えます。

筆者なりに推定する会員諸氏のニーズの前提は、先ず皆様方が等しくアルゼンチン・ファンであり、幸いアルゼンチンはタンゴ、フォルクローレ、サッカー、ワイン、その他デザイン・芸術の如き世界に誇れる文化(含むスポーツ)があるということです。

また、観光についてもブエノスアイレスのタンゴ・フォルクローレや焼肉とワイン、イグアスの滝、パタゴニア氷河をはじめ数々の魅力ある素材をもっています。

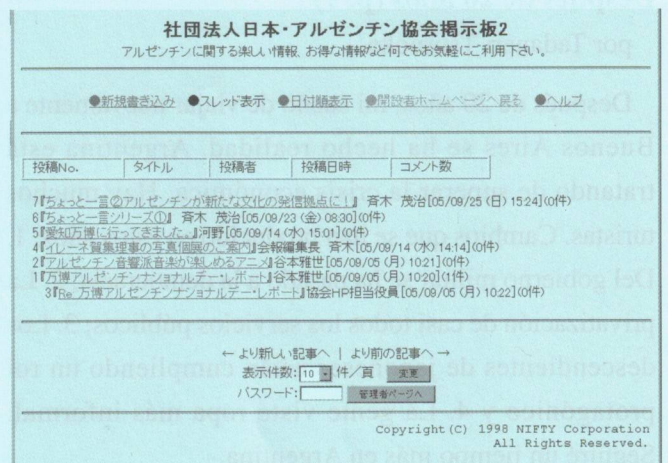
然しながら、これに接する為に遠いアルゼンチンに旅行されるのは膨大な金と時間を要しそう簡単ではないので、一番皆様方が欲しているニーズは日本で開催されるかかる分野のイベントなどの情報を如何に早く手に入るかではないでしょうか?

愛知万博が目標としていた入場者1500万人をいとも簡単にクリアしたのは、入場者にとり日本企業のハイテク・パビリオンが最大の目的ではありましたが、100カ国以上の外国館で外国人と接し、その国の文化(特に食

文化)に触れることも大きな魅力の一つであったと思われます。テレビでかかる風景を盛んに中継していたことはご承知の通りです。

当協会では、将来的には会員有志の協力も得て、関連団体・企業(音楽関連雑誌業者、イベント業者、旅行者、百貨店・スーパーなど)と連携し、HP上(各HPとのリンクを含む)かかる情報を提供出来るネットワークを拡大する計画ですが、現在リンクされているHPも少なく、時間をかけて徐々に拡大して行く所存です。

一番手取り早いのは、会員諸氏が得意とする分野の有効な情報をキャッチされたときはそれを独り占めせず、気軽にHPの掲示板に載せていただくことです。



有効なイベント案内の情報があれば協会内でその妥当性を審議の上、HPの「新着!御知らせ イベント案内」の欄で公表します。

また、アルゼンチンに旅行される方は上記理由より非常に少ないとは思いますが、HPには「アルゼンチンについて アルゼンチンと日本の体験から」という欄を設け、前回会報掲載の滞在体験記を載せております。

若し旅行された場合は、掲示板か協会担当者あてにメールでその体験記や写真をどしどし投稿いただきたいと思います。体験記の読者がこれを読んでアルゼンチン旅行を企画し、体験者がさらなる情報を提供してこれを助けると言う様な会員相互の交流に発展すれば誠に喜ばしい次第です。

勿論、当協会としても掲示板に載った皆様のご感想、ご意見、体験記等をHPのさらなる充実や次回の会報、協会だよりに反映させたいと思えます。

これが所謂新広報システムの運用であります。

繰り返しとなりますが、211名ものアルゼンチンを愛する方々が日本全国にちらばっておられ、一堂に会することはほぼ不可能でありますので、HP掲示板を通じ、気軽に協会にものを言っただき、且つ相互交流を計っていただければ誠に幸甚であります。

(齊木 記)



# Resumen en castellano

por Irene Gashu

## Después de 20 años (p. 1)

por Tadanari Tsuruoka

Después de 20 años, mi sueño de viajar nuevamente a Buenos Aires se ha hecho realidad. Argentina está tratando de superar la crisis económica. Hay muchos turistas. Cambios que se han producido en estos años: 1. Del gobierno militar se ha pasado a la democracia; 2. La privatización de casi todos los servicios públicos; 3. Los descendientes de japoneses están cumpliendo un rol protagónico y 4. La gente viste ropa más informal. Seguiré un tiempo más en Argentina.

## Serie Nuevos Directivos Parte 1

### Recital en Buenos Aires (p. 3)

por Nobuo Henomatsu

A mi siempre me gustó la música. Cuando estaba estudiando para entrar a la universidad, me compré un bandoneón y aprendí solo a tocarlo. Me recibí de médico, trabajé en un hospital y luego, abrí mi propio consultorio, pero nunca dejé de tocar el bandoneón. En 1966, formé el grupo: "Los Aces de Osaka". En julio de este año dimos 4 recitales en Buenos Aires, todos a sala llena.

## Pudo Argentina salir de la situación de cesación de pagos? (p. 5)

por Shinichiro Kobayashi

El 2 de junio finalizó con éxito el canje de la deuda. El 76,15% de los acreedores aceptó el canje. Si bien Argentina salió de la situación de cesación de pagos, hay varios problemas pendientes. 1) Las conversaciones con el FMI y el Club de París no han concluido todavía. 2) ¿Qué hacer con los acreedores que no aceptaron el canje?

## Argentina clasificada para el Mundial 2006

(p. 6)

por Chiaki Watanabe

En septiembre de 2005, Argentina se aseguró una plaza en el Mundial de Fútbol 2006 en Alemania. Pekerman elegirá a los miembros del Seleccionado. Hay varios jugadores jóvenes prometedores como Lionel Messi, Carlos Tevez y Pablo Zabaleta. Hace 12 años que Argentina no gana ningún campeonato importante. Esperemos que en el 2006 vuelva a ser campeón.

## Serie Tango Parte 2

### Para disfrutar en casa durante una semana

(p. 7)

por Masayo Tanimoto

En agosto salió a la venta en Argentina un álbum de 7 DVDs: "Buenos Aires, Días y Noches de Tango". La colección viene en un original estuche con forma de bandoneón. La idea es disfrutar de un disco por día durante una semana. Por ejemplo, el domingo, contiene la grabación de un recital de la Orquesta de Leopoldo Federico en "Esquina Homero Manzi". Trae subtítulos en 7 idiomas. Para los argentinos, su precio de más de 200 dólares es elevado pero vale la pena.

## Expo 2005 Aichi: un acontecimiento inolvidable

(p. 8)

por Yoshimasa Nakano

El 25 de septiembre, Expo Aichi 2005 concluyó con gran éxito. El Pabellón de Argentina mostró sus numerosas riquezas naturales y atracciones turísticas. El show de tango que se realizó todos los días atrajo multi-



tudes. El 11 de julio se festejó el día nacional de Argentina con la presencia de distinguidos invitados, entre ellos la Sra. Cristina San Martín, hermana del fundador de NKK Tubes, compañía socia de nuestra Asociación.

### **Semana de Argentina en la ciudad de Okazaki (p. 10)**

por Yoshimasa Nakano

Del 20 al 27 de agosto se realizó la Semana de Argentina en Matsuzakaya de la ciudad de Okazaki. Bajo el título: “Un Argentino y un Japonés”, se recordó a Manuel Domecq García (nuestra Asociación publicó un libro sobre su testimonio de la Guerra Ruso-Japonesa) y a Shigetaka Shiga, el ilustre geógrafo nacido en Okazaki, que visitara la Argentina en 1910 para asistir a los festejos del centenario de la independencia.

### **Renovación del sitio en Internet (p. 12)**

por Shigeji Saiki

Nuestros estimados socios pueden enviar sus mensajes al “keiji-ban”:

<http://www.argentina.jp/>

Para acceder al keiji-ban, el nombre del usuario y el “password” es: llao01

Esperamos que este sitio sirva para que nuestros socios aprovechen el “keiji-ban” para enviarnos sus comentarios. Además, les informaremos sobre las actividades relacionadas con Argentina que se realicen en Japón. Si han viajado recientemente a la Argentina, apreciaremos que nos envíen sus impresiones y novedades.

### **Reunión de Tango (p. 16)**

La próxima Reunión de Tango con el Profesor Hiroshi Ishikawa, Vice Presidente de la Academia del Tango en Japón, se realizará el jueves 17 de noviembre de 2005 a las 18:30 en Tekko Kaikan. Entradas para socios: 1.000 yenes, incluye café de Coq D'or. Pueden asistir sin reservación previa, pero agradeceremos su reservación al 3501-4684

### **編集者よりの御礼**

フロントページの版画は45号、46号に続き版画大家の星野美智子さんのご厚意により描いていただいた作品を使用させていただきました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は当協会理事のイレーネ賀集さんに作っていただきました。

末尾ながら、両氏のご厚意に対し厚く御礼申し上げます。

## **アルゼンチン情勢**

### **—政治・経済の主な出来事—**

これまで、塩見憲一理事（東京リサーチ・インターナショナル研究理事）が担当して、アルゼンチンでの発表や統計から、政治・経済の主な動きをピックアップし、四半期毎に「ドキュメント」としてまとめて会報に掲載してきました。

会報が年2回の発行になりましたので、このドキュメントは半年分のまとめになり、分量も増えることになりました。そこで、今回は、この「ドキュメント」を別刷りにしました。

最も需要が高いと思われる法人会員には、会報に添付してお送りします。個人正会員、賛助会員の方は、ご希望の旨を事務局までご連絡頂ければ、お送り致します。

Eメールでの送付が可能ですので、Eメール送付をご希望の向きは、Eメール・アドレスをご連絡下さい。

この「ドキュメント」は、塩見理事の前任者、小林晋一郎理事執筆のころから数年間、途切れることなく続いており、データは、協会事務局で保管しています。将来、貴重な集積データになるものと思われまます。

# 第6回 タンゴ音楽の集い

日本タンゴ - アカデミー副会長 石川浩司理事による  
映像と名解説の定期的会合

11月17日(木) 18:30 鉄鋼会館

- いつも御参加のタンゴ演奏家/愛好家達と、アルゼンチン協会会員とその家族、友人が集まる約50人強の集い。
- 昨年2月より年3回鉄鋼会館で開催、コクドールのコーヒープレークをはさみ、2部編成。参加料は会員/家族 1,000円、非会員の友人は1,500円。
- 毎回、楽しみなテーマで、素晴らしい映像と名解説に酔いしれる感動!

## 「アルゼンチンタンゴの新潮流」

60年代後半のピアソラの波と80年代のグローバル化  
「ブエノス・アイレスの街角とタンゴ」

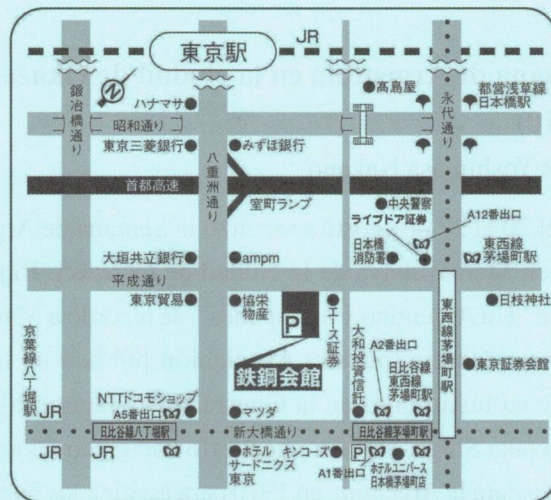
懐かしい街の光景とタンゴに登場する町並みへの郷愁  
「映像による現地タンゲリア巡り」

活況を呈する昨今のタンゲリアの臨場感溢れる興奮  
「タンゴ-歌の変遷」

“歌は世につれ、世は歌に連れ” 興味ある時代と主題

タンゴに酔い乍ら、アルゼンチンの社会環境変化との深い関わりを学び、同時にそのアルゼンチンの歴史を辿る興味に沸く楽しい会合です。

今回も多数の会員各位の御参加を期待して居ります。  
(当日の直接参加も歓迎ですが、事前に3501-4684へお申込み下されば尚幸甚です。どうぞ宜しくお願い!)



## 鉄鋼会館

### 住所

103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10

### 交通

東西線ご利用の場合は茅場町駅下車、12番出口(日本橋消防署方面)。

日比谷線・茅場町駅下車の場合は1番出口(八丁堀方面)。

八丁堀駅下車の場合はA5番出口(八丁堀交差点方面)をご利用ください。

都営浅草線日本橋駅下車の場合はD1番出口をご利用下さい。

## 編集後記

本会報の編集は会報No.46発行時に結成した当協会の役員・会員有志より成る編集チームメンバーを下記の通り一部変更・補充して行ないました。

編集長：齊木 茂治常務理事  
役員メンバー：高安 宏治常務理事、河野 英嗣理事  
会員メンバー：豊田 潤一評議員、渡部 千秋(三菱商事グループ)、藤田 悟郎(日本水産)、河野 朗子(個人会員)、西村(谷本)雅世(個人会員)

(編集長記)

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第47号  
2005年11月2日発行

発行人 木島 輝夫(当協会理事長)

編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会  
105-0004 東京都港区新橋 1-17-1  
新幸ビル

電話：03-3501-4684

FAX：03-3595-3932

Email：argentina@nifty.com

URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート